

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を実践している。施設は市街地にあるために交通の便がよく、商店・学校・病院などがあり生活を感じる環境にある。地域との関わりにおいて施設の家庭菜園は、今治南高校の園芸クリエイト科の生徒さんが管理してくれ園芸セラピーを行っている。畑で収穫した旬の野菜を献立に取り入れ季節感を味わいながら生活している。家族との良好関係が構築できているため今年は2人の入居者さんの看取りをすることが出来た。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設して10年を経過し、利用者も高齢化しているが元気に過ごしている。「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念に沿って職員は支援しており、利用者は毎日を穏やかに過ごすことができている。開設時からの勤務者が多く、職員同士の関係も良好で、半数以上の職員が介護福祉士の資格を有するなど、質の向上にも努めている。常に意見や要望はないか、満足していただいているか等、利用者や家族の声に耳を傾けながら対応するように努めており、管理者は、「今後は利用者の生活の質の向上を目指したい。」と意欲を持って支援している。自治会長を中心に地域住民との交流を深めており、運営推進会議にも多方面からの参加を得て積極的な意見交換が行われるなど、地域に根ざした事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはございません。

#### ※用語について

- 家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員=「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

**—サービス向上への3ステップ—**

事業所名 ほっとやまうち

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 近藤 礼子

評価完了日 H25 年 11 月 15 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b> 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念があり、職員は共有し意識して取り組んでいる。理念はよく目に届くところに明示している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念は、開所1年が経過した時に職員全員で意見を出し合い、当初の理念を分りやすい表現に改めたものである。職員が介護に行き詰った時は理念に立ち戻り、ケアの実践に努めている。理念は、玄関や各ユニット入口、スタッフルームに掲示し、毎月のミーティングやカンファレンスで職員間で共有し実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b> 自治会に参加し、地域の防災訓練や神社の清掃などの行事には参加するようにしている。 ”たのもさん”作りでは老人クラブの有志が指導に当たってくれ、ふるさとの伝承行事を受け継いでいる。</p> <p><b>(外部評価)</b> 自治会長は事業所の近くに住んでおり、開設時から協力を得ている。自治会に加入し、地域の防災訓練や神社の掃除、市民大清掃、自治会の総会等の地域の行事に参加している。秋の豊作を願う「たのもさんづくり」で老人クラブと交流をしたり、化粧や傾聴のボランティア、今治南高校の生徒の園芸セラピー等の訪問があるなど交流を深めている。また、事業所の夏祭りは、地域住民にボランティアとして交通整理を行ってもらうなどの参加協力を得て開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 入居申込み時に困っている状況を詳しく聞き、認知症対応のアドバイス等を行っている。 今治明徳短大、ニチイ学館の実習に協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 2ヶ月に1回開催し、事業報告や取り組みについてを話し合っている。また、メンバーの方々の体験を通した意見を討論し合い、サービス向上に活かしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議は2か月に1回、家族、高校・短大の教員、自治会長、老人クラブ会員、商店主、消防署員、民生委員、認知症家族の会代表、市担当者等、多方面からの参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や疾病、ヒヤリハットなどを話し合い、地域に開かれた事業所の役割等、その時に応じた議題を熱心に意見交換している。職員も交代で参加しており、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議のメンバーとして参加していただき、議題に対して的確な意見をもらい、実践に繋げている。また、事業所内で発生した事故に対しては、速やかに報告し、アドバイスを受けている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 市担当者は毎回運営推進会議に参加し、情報交換している。市担当者からは、ノロウイルス等の感染症の情報提供や事故発生時のアドバイスを受けている。利用者の自宅退去時には、利用できるサービスの相談を行う等、日頃から協力関係がされている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 職員は身体拘束について正しく理解しており、その都度ケアカンファレンスし取り組んでいる。玄関は日中施錠せず、センサー式のチャイムで見守りをしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 何が拘束にあたるのかをその都度職員間で話し合い、やむを得ず拘束を行う場合には、文書で家族の同意を得て、1週間毎に代替策を検討し見直しをしている。帰宅願望の強い利用者が1人でコンビニへ行って自宅に帰ったことがあり、安全面を考えエレベーターに鍵を付けたことがあるが、現在、玄関等の施錠はしていない。ベッドからトイレへ移動する時は、利用者が鈴を鳴らして職員を呼ぶなど、身体拘束をしないケアに努めている。</p>	高齢者の権利擁護や身体拘束の勉強会を実施し、職員全員の共通認識を図ると共に、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の理解を図り支援することを望みたい。また、身体拘束だけではなく、言葉での拘束や精神的苦痛等についても理解が得られるよう取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どういう行為が虐待に当たるかミーティングなどでよく話し合っている。 ネグレストに当たる虐待行為についてはよく話し合い、見極めながらケアに取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し学んでいるが、今までに活用した事例はない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時納得してもらえる迄細かく丁寧に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に家族代表で出席をお願いし、活発な意見を聞かせもらっている。 また、ケアプラン作成時や、家族会の折に要望を聞き、開かれた施設運営を心がけている。  (外部評価) 家族の面会時には職員から声かけをし、話や意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、意見や要望を聞いている。介護計画の更新時にも家族から意見を聞いている。また、3か月毎に多くの参加を得て家族会を開催し、意見交換や親睦を図っている。聞き取った内容は申し送り時に話し合い、連絡ノートや支援経過に記録して職員全員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていく	(自己評価) 月に1度のリーダーミーティングや各階のミーティングを行い、職員の意見や提案を傾聴し反映させている。  (外部評価) 月1回ミーティングで意見交換をしており、職員は管理者に意見を伝えることができる。個人的な相談は、管理者が個別に聞いて対応している。行事は、職員のアイデアを集約反映し担当者を決めて実施している。また、研修案内等は職員全員に回覧し、希望者は自由に参加できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 処遇改善交付金制度が導入されて給与アップした。誕生日に有給休暇を活用できリフレッシュ出来ている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内は各ユニットに配布され、研修の機会を提供されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他グループホームより施設見学の希望があり受け入れをした。意見交換ができ、サービスの質の向上に繋がっていると思う。他グループホームの季節の催事に参加させてもらい親睦を図っている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式を活用し、生活暦を知り理解する事で、信頼関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<b>(自己評価)</b> 利用申込み時に家族から詳しく聞くようしている。また、認知症ケアは家族の協力があってこそ成り立つ事をよく理解していただき、家族とスタッフの共同で行うことの大切さを認識してもらっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<b>(自己評価)</b> 利用者の様子や家族からの情報を的確に把握し、今必要とされるケアを見極め対応している。また、他利用者やスタッフとの馴染みの関係づくりを家族と共にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場おかげ、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<b>(自己評価)</b> 人生の先輩とし、共に過し喜びも悲しみも分かち合える関係づくりを心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場おかげ、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<b>(自己評価)</b> 利用者のホームでの暮らしぶりを詳しく報告し、認知症のケアは家族の協力なしには出来ないことを理解してもらい、可能な限り面会をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<b>(自己評価)</b> 家族には可能な範囲でこれまで大切にしてきた生活習慣の継続をお願いしている。（例えば、墓参り・神社の参拝・美容院・外食 等）同施設内のデイサービスへも行き馴染みの関係を継続している。  <b>(外部評価)</b> 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞いて把握している。また、日常生活の中で利用者から聞いたことは大切に記録し、職員間で共有している。利用者の希望に応じて馴染みの神社やお墓参りに出かけたり、ドライブの好きな利用者は自宅の近くに行けるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 楽しく関わりが持てるよう雰囲気づくりをしている。また仲良く互いに支え合えるよう席の配置を考慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や他施設へ移っても、様子を伺いにお見舞いに行くようにしている。	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の会話等で意向の把握に努めている。困難な利用者に対しては、暮らしぶりを観察し、ケアに当たっている。  (外部評価) 日常会話の中で、利用者から思いや意向を聞くようにしている。また、思いの把握が困難な利用者には、家族に聞く等で利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。不穏な利用者には、寄り添いながら聞いたり、散歩に出かけたりするなどの対応をしている。対応した成功例を申し送り時に話し合い、センター方式の記録をして活用しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族会や面会時に情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録に記入している。また支援経過表には詳しく記入している。申し送り時も十分話し合い情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p><b>(自己評価)</b> ケア目標をカード化し、生活記録記入時いつも目を通し、スタッフ全員で共有している。 月末にモニタリングを行っている。また毎月のミーティング時にケアカンファレンスを行い状況把握に努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。6か月に1回、利用者や家族、関係者と話し合い、見直しを行っている。計画目標、サービス内容を記入したカードを作成し、職員が分かりやすいように実施状況はシールを貼るなど、モニタリングにつなげている。経過記録には、日常生活の様子を利用者の言葉で記録し、利用者や職員のやりがいにもつながるように工夫されている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 個人カルテに気づきや、その人の言われた言葉を大切にして記入している。スタッフ間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> これまでの馴染みの関係の継続の為、入居してからも通所介護の利用も行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p><b>(自己評価)</b> 今治南高校園芸クリエイト科の学生さんと共に園芸セラピーを行い、季節の野菜や花を作っている。またスタッフの家族が傾聴ボランティアに来てくれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は母体の山内病院となっているので、連携は取れている。緊急時もすぐにドクターからの指示があり迅速に対応が出来ている。  (外部評価) 入居時に利用者や家族に説明し、かかりつけ医を母体病院の協力医に変更している。月1回、職員が同行し定期受診をして健康管理をしている。受診結果や検査予定等は、職員が家族に電話や面会時に報告して情報を共有している。外科などの専門医は、家族の協力を得て受診している。緊急時には、母体病院の協力医が往診して対応してくれるなど、利用者は適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の異変はすぐ看護師に相談し、適切なアドバイスを受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 介護サマリーを提供し情報を交換している。スタッフが頻回にお見舞いに行き、病院関係者との関係作りを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族会や担当者会議で家族の意向や施設の支援について説明している。 看取りについての冊子も渡している。  (外部評価) 看取り等の指針を作成している。ほとんどの家族が看取りを希望されており、事業所としてできることできないことを家族に説明し、確認している。事業所では今までに6例の看取りの経験がある。看取りは、母体病院の看護師長の指導があり、職員や医療関係者が連携を図り、安心して穏やかに最期が迎えられるよう支援に努めている。	看取りの職員や看護師、医療関係者がそれぞれの役割を確認し合い、連携体制を構築すると共に、職員が研修に参加するなど事業所での勉強会を重ね、職員のレベルアップを図り、住み慣れた場所で安心して最期を迎えるよう、さらなる取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<b>(自己評価)</b> 緊急に備えたマニュアルがある。 また、AEDを使った応急処置の講習を全員受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<b>(自己評価)</b> 年2回防災・避難訓練を実施している。他にH25.7に「被災時の対応」として防災訓練を実施「災害用伝言ダイヤル171」で安否の確認。非常食作り・簡易トイレ製作し体験した。  <b>(外部評価)</b> 事業所独自の夜間を想定した訓練のほか、消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施し、アドバイスをもらっている。建物の屋上タンクに蛇口をつけ、各階の洗面所の足元に水を置くなど、緊急時に水が使用できるよう対応している。4階建ての耐震構造となっている事業所は、地域の避難場所としての受け入れの情報提供をしている。また、地区的防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<b>(自己評価)</b> 受容、傾聴、共感をいつも念頭に置いたケアを心がけている。特に排泄の声掛けは慎重に行っている。また、お手伝いをしてくれた時は、必ず感謝の気持ちを伝えている。  <b>(外部評価)</b> 排泄時には利用者に小さな声でさりげなく声かけをしたり、ちゃん付けで呼ばないなど、親しくなりすぎて失礼のないよう気を付けて対応している。管理者は職員の気になる対応がある場合は、その都度個人的に注意をしている。また、気になることは職員同士で注意し合ったり、ミーティングで話し合いながら、利用者のプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中でも本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<b>(自己評価)</b> 利用者の目線やペースに合わせたコミュニケーションを心がけている。「待つ」を認識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	<b>(自己評価)</b> 利用者さんの体調や気持ちに合わせた無理のないケアを支援している。	
		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 定期的に専属の美容師が来所し、カットしてもらっている。また衣類は毎日洗濯し、清潔の支援を心がけている。外出する時はおしゃれし、化粧の支援もしている。	
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 旬の食材を取り入れた季節感のある献立にしている。菜園で収穫した野菜の簡単な処理や下ごしらえを手伝ってもらっている。下膳や食器拭きなどの可能な限りお手伝いをしてもらっている。  <b>(外部評価)</b> 今治南高校の協力で園芸セラピーの菜園があり、旬の野菜を収穫し調理している。週2回、ユニット毎に交代で買い物に行き、卵・肉・魚・牛乳は配達してもらい、地元の米を使用して職員が調理している。毎日、利用者の好みを聞き、冷蔵庫にある物で献立を立て調理し、利用者の嫌いな物がメニューに含まれている場合は、代わりの物を提供している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食事をしている。また、誕生日は特別食を用意している。	
		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 山内病院の栄養士さんに献立のチェックをしてもらいアドバイスをもらっている。水分摂取量の少ない利用者さんには汁物を多めにしたり、味の付いた好みの飲料水を提供し水分確保している。	
		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後口腔ケアを支援している。義歯の利用者さんには、就寝中は外し消毒液に浸してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<b>(外部評価)</b> 排泄チェックをし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員が声かけをし、トイレ誘導することでパット交換の回数が減っている。夜間には鈴の合図で職員がポータブルトイレでの排泄を介助する等、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、ヨーグルトや纖維質の多い食物を多く食べたり、ラジオ体操や食後に廊下を歩く等、利用者の便秘対策にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<b>(自己評価)</b> ラジオ体操や軽いストレッチを毎日行っている。外気浴の支援や廊下を歩く等の声掛けを行っている。ヨーグルトなどの乳製品は毎日提供している。芋や豆類等の纖維質豊富な食品も献立に取り入れている。	
			<b>(自己評価)</b> 午後の時間帯にゆったりと入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否の利用者さんにはフットバスを使用したり家族の協力等で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<b>(外部評価)</b> 3日に1回を基本として、午後に利用者の希望に合せて入浴することができる。浴槽には入浴剤を入れて、ゆっくり話をしながら、入浴が楽しめるよう支援している。重度の利用者や身体状況に合わせて、シャワー浴での対応もしている。入浴が苦手な利用者には、タイミングを見て声かけをしたり、家族が自宅のお風呂で介助をして入浴をするなど、利用者に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 眠れない時は、ホットミルクを提供したりゆったりと話を傾聴する等、安心して入眠を促せるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの薬を把握している。薬の変更・追加薬・緊急薬が処方された場合は、連絡ノートに記載し申し送りを徹底し、全スタッフが理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人その人の生活歴を意識した役割をお願いし、頼りにされている張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう考慮している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調や希望に合わせて外気浴に出たり散歩を支援している。また、外食や郊外へのドライブの支援をしている。菊花展・桜・コスモス・紅葉等の花見にも行っている。  (外部評価) 天気の良い日は敷地内で外気浴を楽しんでいる。2か月に1回、市民の森や吹揚山、菊花展などに出かけられるよう支援している。年4回、ホテルや回転寿司などの外食にも出かけており、利用者は楽しみにしている。利用者の希望に応じて、美容室に出かけたり、コンビニへお菓子を買い行ったりするなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近所のコンビニやドラッグストアへ買い物支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフルームの電話は自由に使ってもらっている。面会の少ない家族には手紙でやり取り出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用部分には床暖房・エアコン・空気清浄加湿器・大型テレビ等設備し、快適に過ごせている。光はカーテンで調整している。季節の花を生け季節感を味わってもらっている。  (外部評価) 調理場からリビング全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来できる。リビングは広く、日差しが十分に入り明るい空間となっている。壁には、写真や季節の飾りつけをしている。廊下にはソファを置き、利用者はゆったりと穏やかに過ごすことができている。浴室の入口にはのれんを掛けたり、トイレのドアの色を変えたりするなど、利用者に分りやすい工夫をしている。ユニットの入口にはソファを置いて花を飾り、サンルームの雰囲気でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファーを適当な場所に置き、自由に利用してもらっている。エレベーターホールは日当たりが良く、日光浴も兼ねて良き交流の場になっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ち込み、居心地よく過ごせている。  (外部評価) 居室はベッドと整理タンスを常備している。居室には、位牌や使い慣れた身の回りの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真を飾るなど、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・風呂に手すりを取り付けている。トイレのドアの色を変えて名札は大きく表示している。各居室のドアは引き戸になっている。廊下の幅は2m40cmあり幅広く安全である。	

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を実践している。施設は市街地にあるために交通の便がよく、商店・学校・病院などがあり生活を感じる環境にある。地域との関わりにおいて施設の家庭菜園は、今治南高校の園芸クリエイト科の生徒さんが管理してくれ園芸セラピーを行っている。畑で収穫した旬の野菜を献立に取り入れ季節感を味わいながら生活している。家族との良好関係が構築できているため今年は2人の入居者さんの看取りをすることが出来た。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設して10年を経過し、利用者も高齢化しているが元気に過ごしている。「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念に沿って職員は支援しており、利用者は毎日を穏やかに過ごすことができている。開設時からの勤務者が多く、職員同士の関係も良好で、半数以上の職員が介護福祉士の資格を有するなど、質の向上にも努めている。常に意見や要望はないか、満足していただいているか等、利用者や家族の声に耳を傾けながら対応するように努めており、管理者は、「今後は利用者の生活の質の向上を目指したい。」と意欲を持って支援している。自治会長を中心に地域住民との交流を深めており、運営推進会議にも多方面からの参加を得て積極的な意見交換が行われるなど、地域に根ざした事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目

#### (評価項目の構成)

##### I. 理念に基づく運営

##### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

##### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

##### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはできません。

#### ※用語について

- 家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員=「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

事業所名 ほっとやまうち

(ユニット名) 3F

記入者(管理者)

氏 名 稲田 玲子

評価完了日 H25 年 11 月 15 日

(別表第1)

**自己評価及び外部評価表**

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b> 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」を常に意識し、取り組んでいる。 スタッフの目に付く所に理念を掲示している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念は、開所1年が経過した時に職員全員で意見を出し合い、当初の理念を分りやすい表現に改めたものである。職員が介護に行き詰った時は理念に立ち戻り、ケアの実践に努めている。理念は、玄関や各ユニット入口、スタッフルームに掲示し、毎月のミーティングやカンファレンスで職員間で共有し実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b> 地方祭での子供神輿・大人神輿、また亥の子さんも来所される。”たのもさん”作りも老人会の有志が指導してくださったりと、地域の行事に積極的に参加している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 自治会長は事業所の近くに住んでおり、開設時から協力を得ている。自治会に加入し、地域の防災訓練や神社の掃除、市民大清掃、自治会の総会等の地域の行事に参加している。秋の豊作を願う「たのもさんづくり」で老人クラブと交流をしたり、化粧や傾聴のボランティア、今治南高校の生徒の園芸セラピー等の訪問があるなど交流を深めている。また、事業所の夏祭りは、地域住民にボランティアとして交通整理を行ってもらうなどの参加協力を得て開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 明徳短大、ニチイ学館の研修生を受け入れ、協力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催している。 その中で意見し合ったり情報交換したりして、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、家族、高校・短大の教員、自治会長、老人クラブ会員、商店主、消防署員、民生委員、認知症家族の会代表、市担当者等、多方面からの参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や疾病、ヒヤリハットなどを話し合い、地域に開かれた事業所の役割等、その時に応じた議題を熱心に意見交換している。職員も交代で参加しており、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>(自己評価) 事故報告書等報告は、速やかに行っている。運営推進会議に出席した担当者に疑問や取り組みについて相談したり、アドバイスをもらったりしている。また当ホームの取り組みについて質問される事もある。</p> <p>(外部評価) 市担当者は毎回運営推進会議に参加し、情報交換している。市担当者からは、ノロウイルス等の感染症の情報提供や事故発生時のアドバイスを受けている。利用者の自宅退去時には、利用できるサービスの相談を行う等、日頃から協力関係ができている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) スタッフ全員が正しく理解している。 玄関にはセンサーチャイムを付け、日中は施錠しない。</p> <p>(外部評価) 何が拘束にあたるのかをその都度職員間で話し合い、やむを得ず拘束を行う場合には、文書で家族の同意を得て、1週間毎に代替策を検討し見直しをしている。帰宅願望の強い利用者が1人でコンビニへ行って自宅に帰ったことがあり、安全面を考えエレベーターに鍵を付けたことがあるが、現在、玄関等の施錠はしていない。ベッドからトイレへ移動する時は、利用者が鈴を鳴らして職員を呼ぶなど、身体拘束をしないケアに努めている。</p>	高齢者の権利擁護や身体拘束の勉強会を実施し、職員全員の共通認識を図ると共に、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の理解を図り支援することを望みたい。また、身体拘束だけではなく、言葉での拘束や精神的苦痛等についても理解が得られるよう取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 積極的に研修にも参加し、スタッフ一同何が虐待にあたるか理解している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、学ぶ機会を作っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時説明し、理解・納得して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族とは密にコミュニケーションをとり、家族会・運営推進会議等で意見や要望を聞いている。また、ケアプラン作成時や担当者会議の時にも同様に聞く機会を設けている。  (外部評価) 家族の面会時には職員から声かけをし、話や意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、意見や要望を聞いている。介護計画の更新時にも家族から意見を聞いている。また、3か月毎に多くの参加を得て家族会を開催し、意見交換や親睦を図っている。聞き取った内容は申し送り時に話し合い、連絡ノートや支援経過に記録して職員全員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていく	(自己評価) リーダー会やミーティングを月に1度行っていて、その時意見を聞く機会を設けている。  (外部評価) 月1回ミーティングで意見交換をしており、職員は管理者に意見を伝えることができる。個人的な相談は、管理者が個別に聞いて対応している。行事は、職員のアイデアを集約反映し担当者を決めて実施している。また、研修案内等は職員全員に回覧し、希望者は自由に参加できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 有給休暇の残数を表わしてくれる様になった。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を受ける機会を設けてもらっているのでスキルアップに繋がっていると思う。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設の催し物に参加させてもらい、交流を図り、意見交換し合ってサービス向上につなげている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族に話を伺ったり、センター方式を活用して、本人を少しでも理解するように努め信頼関係を築く努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に十分な聞き取りを行い、また入所後も要望があれば聞き入れる努力を怠らず良好な関係作りが出来る様努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりがほっとでの生活で何を求めているかを把握し、対応出来るよう努力している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場おかげで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として敬意を表し、利用者・スタッフ双方が「ありがとうございます」と言い合える環境、また共に過ごし、支えあう関係作りを築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場おかげで、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の協力がなくては、ケア出来ないことを家族の方に理解してもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまで大切にしてきた馴染みの生活（墓参り・ドライブ・美容院や買い物、外食 等）を継続してもらい、友人や親戚の面会も歓迎している。  (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞いて把握している。また、日常生活の中で利用者から聞いたことは大切に記録し、職員間で共有している。利用者の希望に応じて馴染みの神社やお墓参りに出かけたり、ドライブの好きな利用者は自宅の近くに行けるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりが孤立しない様、関わりを持てる様に席の配置を工夫し、一緒に食事したり体操やレクリエーション等で互いにコミュニケーションを取れるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設へ移動された利用者さんを尋ねたり、退所された方がデイサービスの帰りに寄ってくださった時にも大切にお迎えしている。	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの意向・要望に耳を傾け、把握するよう努力している。  (外部評価) 日常会話の中で、利用者から思いや意向を聞くようにしている。また、思いの把握が困難な利用者には、家族に聞く等で利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。不穏な利用者には、寄り添いながら聞いたり、散歩に出かけたりするなどの対応をしている。対応した成功例を申し送り時に話し合い、センター方式の記録をして活用しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、また家族さんからの情報も収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活記録を作り、また支援経過表に詳しく記入している。また申し送りを十分行い、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランをカードにし、生活記録記入時常に目を通し、スタッフ全員プランは共有している。また毎月ミーティング時にカンファレンスを行っている。  (外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。6か月に1回、利用者や家族、関係者と話し合い、見直しを行っている。計画目標、サービス内容を記入したカードを作成し、職員が分かりやすいように実施状況はシールを貼るなど、モニタリングにつなげている。経過記録には、日常生活の様子を利用者の言葉で記録し、利用者や職員のやりがいにもつながるように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に本人の言われた言葉を大切に記入し、ケアの実践や気づき等の情報を共有し、次回のケアプラン作成時に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ショートステイを利用する方や、利用者のデイサービスの利用や、リハビリを利用している利用者さんもいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 今治南高校の園芸セラピーやノエビアさんのお化粧のボランティア等を楽しみにされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が山内病院なので十分連携は取れている。  (外部評価) 入居時に利用者や家族に説明し、かかりつけ医を母体病院の協力医に変更している。月1回、職員が同行し定期受診をして健康管理をしている。受診結果や検査予定等は、職員が家族に電話や面会時に報告して情報を共有している。外科などの専門医は、家族の協力を得て受診している。緊急時には、母体病院の協力医が往診して対応してくれるなど、利用者は適切な医療を受けることができる。	
30	11	○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 体調の変化等はすぐ連絡・相談し、医師に報告し、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院との関係作りは出来ている。 山内病院以外に入院したときはスタッフがお見舞いに行き、関係づくりに努めている。	
32		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族が来られた時等に意向を聞き、話し合っている。またその意向をスタッフ全員で話し合い、共有している。  (外部評価) 看取り等の指針を作成している。ほとんどの家族が看取りを希望されており、事業所としてできることできないことを家族に説明し、確認している。事業所では今までに6例の看取りの経験がある。看取りは、母体病院の看護師長の指導があり、職員や医療関係者が連携を図り、安心して穏やかに最期が迎えられるよう支援に努めている。	看取りの職員や看護師、医療関係者がそれぞれの役割を確認し合い、連携体制を構築すると共に、職員が研修に参加するなど事業所での勉強会を重ね、職員のレベルアップを図り、住み慣れた場所で安心して最期を迎えるよう、さらなる取組みを期待したい。
33	12			

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDの対応の仕方等の訓練をスタッフ全員受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回訓練を実施している。  (外部評価) 事業所独自の夜間を想定した訓練のほか、消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施し、アドバイスをもらっている。建物の屋上タンクに蛇口をつけ、各階の洗面所の足元に水を置くなど、緊急時に水が使用できるよう対応している。4階建ての耐震構造となっている事業所は、地域の避難場所としての受け入れの情報提供をしている。また、地区の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全スタッフが心掛け、対応している。  (外部評価) 排泄時には利用者に小さな声でさりげなく声かけをしたり、ちゃん付けで呼ばないなど、親しくなりすぎて失礼のないよう気を付けて対応している。管理者は職員の気になる対応がある場合は、その都度個人的に注意をしている。また、気になることは職員同士で注意し合ったり、ミーティングで話し合いながら、利用者のプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中でも本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃から利用者との信頼関係を築きコミュニケーションを密にして、思いや希望を聞きケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	<b>(自己評価)</b> スタッフが忙しくてなかなか利用者さんのペースに合わせられない時もあるが、出来る限り希望に沿ったケアを心掛けている。	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 自分でコーディネイトされる利用者さんにはさりげなく身だしなみを直したり、「ステキですね」と声掛けしている。	
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 利用者さんは日頃から「おいしい」と言ってくださり食事を楽しみにされている。スタッフも季節を感じる献立を取り入れたりと工夫している。利用者さんが食器を拭いたり下ごしらえを手伝ってくれている。  <b>(外部評価)</b> 今治南高校の協力で園芸セラピーの菜園があり、旬の野菜を収穫し調理している。週2回、ユニット毎に交代で買い物に行き、卵・肉・魚・牛乳は配達してもらい、地元の米を使用して職員が調理している。毎日、利用者の好みを聞き、冷蔵庫にある物で献立を立て調理し、利用者の嫌いな物がメニューに含まれている場合は、代わりの物を提供している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食事をしている。また、誕生日は特別食を用意している。	
40	15	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 栄養士さんにチェックしてもらっている。またアドバイスも受けている。水分摂取については少ない利用者さんには1日の水分量をチェックし、好みの飲み物等を提供し、確保出来るように努めている。	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後口腔ケアを支援している。	
42				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p><b>(自己評価)</b> 排泄パターンを各利用者さんごとに把握し、声掛けしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 排泄チェックをし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員が声かけをし、トイレ誘導することでパット交換の回数が減っている。夜間には鈴の合図で職員がポータブルトイレでの排泄を介助する等、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、ヨーグルトや纖維質の多い食物を多く食べたり、ラジオ体操や食後に廊下を歩く等、利用者の便秘対策にも努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 毎日ラジオ体操等の運動を取り入れ、食事面では毎朝ヨーグルトやオリゴ糖等を提供し、利用者一人ひとりに合った食事を工夫し対応している。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p><b>(自己評価)</b> スタッフの都合に合わせることが多くなっているが、希望日がある利用者さんには希望に沿った支援を心掛けている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 3日に1回を基本として、午後に利用者の希望に合せて入浴することができる。浴槽には入浴剤を入れて、ゆっくり話をしながら、入浴が楽しめるよう支援している。重度の利用者や身体状況に合わせて、シャワー浴での対応もしている。入浴が苦手な利用者には、タイミングを見て声かけをしたり、家族が自宅のお風呂で介助をして入浴をするなど、利用者に合わせた支援をしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p><b>(自己評価)</b> 眠れないという利用者さんには温かい飲み物を提供したり話を傾聴したりと、安心して眠りにつけるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が一人ひとりの服薬状況を把握している。また頓服薬等については申し送りを徹底している。排便については服薬調整を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日bingoゲームやトランプゲーム、ビデオ鑑賞等利用者さんが楽しみにされている。利用者さん一人ひとりに役割を持ってもらう様支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者さんの気分・体調に合わせて外気浴、散歩等している。また外食やドライブにも出掛けご家族にも協力いただいている。  (外部評価) 天気の良い日は敷地内で外気浴を楽しんでいる。2か月に1回、市民の森や吹揚山、菊花展などに出かけれるよう支援している。年4回、ホテルや回転寿司などの外食にも出かけており、利用者は楽しみにしている。利用者の希望に応じて、美容室に出かけたり、コンビニへお菓子を買い行ったりするなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族との買い物を楽しめたり、近くのコンビニに買い物に出掛けたりしているが、基本的にはおこづかい程度のお金はスタッフが管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状をご家族宛に書いてもらったり、電話を希望する利用者さんには掛けてもらっている。携帯電話を所持している利用者さんもいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 共有スペースには空調設備が整っており、大型TVも設置されている。季節の花や、壁には季節感あふれる飾りつけをしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 調理場からリビング全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来できる。リビングは広く、日差しが十分に入り明るい空間となっている。壁には、写真や季節の飾りつけをしている。廊下にはソファを置き、利用者はゆったりと穏やかに過ごすことができている。浴室の入口にはのれんを掛けたり、トイレのドアの色を変えたりするなど、利用者に分りやすい工夫をしている。ユニットの入口にはソファを置いて花を飾り、サンルームの雰囲気でくつろぐことができる。</p>	
52	19	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 廊下にソファーを配置し、利用者さん同士が話し合ったり思い思いに過ごせるスペースを設けている。</p>	
53		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p><b>(自己評価)</b> 利用者さんが使い慣れた家具を持って来られたり、お位牌を持って来られたりしている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 居室はベッドと整理タンスを常備している。居室には、位牌や使い慣れた身の回りの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真を飾るなど、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができる空間となっている。</p>	
54	20	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p><b>(自己評価)</b> 廊下には手すりを付け安全に歩行できる様にし、また浴室・トイレ・各客室入口には、大きく名札や絵でわかる様工夫している。</p>	

(別表第1の3)

## 評価結果概要表

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200783
法人名	医療法人平成会
事業所名	ほっとやまうち
所在地	今治市常盤町8丁目4-31
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 12 月 16 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念を実践している。施設は市街地にあるために交通の便がよく、商店・学校・病院などがあり生活を感じる環境にある。地域との関わりにおいて施設の家庭菜園は、今治南高校の園芸クリエイト科の生徒さんが管理してくれ園芸セラピーを行っている。畑で収穫した旬の野菜を献立に取り入れ季節感を味わいながら生活している。家族との良好関係が構築できているため今年は2人の入居者さんの看取りをすることが出来た。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設して10年を経過し、利用者も高齢化しているが元気に過ごしている。「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念に沿って職員は支援しており、利用者は毎日を穏やかに過ごすことができている。開設時からの勤務者が多く、職員同士の関係も良好で、半数以上の職員が介護福祉士の資格を有するなど、質の向上にも努めている。常に意見や要望はないか、満足していただいているか等、利用者や家族の声に耳を傾けながら対応するように努めており、管理者は、「今後は利用者の生活の質の向上を目指したい。」と意欲を持って支援している。自治会長を中心に地域住民との交流を深めており、運営推進会議にも多方面からの参加を得て積極的な意見交換が行われるなど、地域に根ざした事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目

#### (評価項目の構成)

##### I. 理念に基づく運営

##### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

##### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

##### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはできません。

#### ※用語について

- 家族等=家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者=事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員=「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム=一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

事業所名 ほっとやまうち

(ユニット名) 4F

記入者(管理者)

氏 名 玉井 理恵

評価完了日 H25 年 11 月 15 日

(別表第1)

**自己評価及び外部評価表**

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p><b>(自己評価)</b> わかりやすく覚えやすい「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」の理念のもと、実践に繋げている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」という理念は、開所1年が経過した時に職員全員で意見を出し合い、当初の理念を分りやすい表現に改めたものである。職員が介護に行き詰った時は理念に立ち戻り、ケアの実践に努めている。理念は、玄関や各ユニット入口、スタッフルームに掲示し、毎月のミーティングやカンファレンスで職員間で共有し実践している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p><b>(自己評価)</b> 自治会に参加し、地域の行事に職員が交替で参加している。買い物も地域の店を利用している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 自治会長は事業所の近くに住んでおり、開設時から協力を得ている。自治会に加入し、地域の防災訓練や神社の掃除、市民大清掃、自治会の総会等の地域の行事に参加している。秋の豊作を願う「たのもさんづくり」で老人クラブと交流をしたり、化粧や傾聴のボランティア、今治南高校の生徒の園芸セラピー等の訪問があるなど交流を深めている。また、事業所の夏祭りは、地域住民にボランティアとして交通整理を行ってもらうなどの参加協力を得て開催している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議で地域の方に認知症の方の理解を深めて頂き、支援の方法を話し合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p><b>(自己評価)</b> 2ヶ月に1度、職員・利用者家族が交替で参加。交流のある学校教師・地元住民で意見交換し記録している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議は2か月に1回、家族、高校・短大の教員、自治会長、老人クラブ会員、商店主、消防署員、民生委員、認知症家族の会代表、市担当者等、多方面からの参加を得て開催している。会議では事業所の活動報告や疾病、ヒヤリハットなどを話し合い、地域に開かれた事業所の役割等、その時に応じた議題を熱心に意見交換している。職員も交代で参加しており、出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
4	3	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進会議のメンバーとして参加。アドバイスをもらっている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 市担当者は毎回運営推進会議に参加し、情報交換している。市担当者からは、ノロウイルス等の感染症の情報提供や事故発生時のアドバイスを受けている。利用者の自宅退去時には、利用できるサービスの相談を行う等、日頃から協力関係ができている。</p>	
5	4	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p><b>(自己評価)</b> 身体拘束についての回覧がまわって来て、職員全員で理解し、ケアに取り組み、安全に自由な生活支援に努めている。</p> <p><b>(外部評価)</b> 何が拘束にあたるのかをその都度職員間で話し合い、やむを得ず拘束を行う場合には、文書で家族の同意を得て、1週間に毎に代替策を検討し見直しをしている。帰宅願望の強い利用者が1人でコンビニへ行って自宅に帰ったことがあり、安全面を考えエレベーターに鍵を付けたことがあるが、現在、玄関等の施錠はしていない。ベッドからトイレへ移動する時は、利用者が鈴を鳴らして職員を呼ぶなど、身体拘束をしないケアに努めている。</p>	高齢者の権利擁護や身体拘束の勉強会を実施し、職員全員の共通認識を図ると共に、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為の理解を図り支援することを望みたい。また、身体拘束だけではなく、言葉での拘束や精神的苦痛等についても理解が得られるよう取組みを期待したい。
6	5			

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止マニュアルを職員全員で共有し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加した。活用する事は難しかった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時文章で説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会を3ヶ月毎に開催し、利用者の家族との交流を図っている。毎月”ほっとだより”にて様子をお知らせしている。  (外部評価) 家族の面会時には職員から声かけをし、話や意見を言いやすい雰囲気づくりに努め、意見や要望を聞いている。介護計画の更新時にも家族から意見を聞いている。また、3か月毎に多くの参加を得て家族会を開催し、意見交換や親睦を図っている。聞き取った内容は申し送り時に話し合い、連絡ノートや支援経過に記録して職員全員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させていく	(自己評価) 毎月1回の各ユニットミーティングで意見交換している。その前のリーダー会にて、管理者に職員の意見を伝えている。  (外部評価) 月1回ミーティングで意見交換をしており、職員は管理者に意見を伝えることができる。個人的な相談は、管理者が個別に聞いて対応している。行事は、職員のアイデアを集約反映し担当者を決めて実施している。また、研修案内等は職員全員に回覧し、希望者は自由に参加できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格に応じた手当では充実している。昇給がないので、長年勤務している職員は向上心が欠けてしまっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会を受ける機会を確保し、働きながらのトレーニングの機会が与えられている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会参加時に交流している。他のグループホームの催物に参加。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) センター方式で生活暦を知り、家族と交流を図る事で本人の不安を知り、信頼関係作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族が困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、情報を詳しく聞き信頼関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況にあったサービスを心がけている。また馴染みの関係づくりに努め、本人のためのケアを見極めるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場おかげで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、第2の家族のごとく寝食を共に心を通わせる関係を築けるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場おかげで、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 暮らししぶりを詳しく家族に報告し、家族の大切さを家族に知らせている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 親戚や知人の来訪者が来やすい状態作りに努めている。  (外部評価) 入居時に利用者や家族から馴染みの関係を聞いて把握している。また、日常生活の中で利用者から聞いたことは大切に記録し、職員間で共有している。利用者の希望に応じて馴染みの神社やお墓参りに出かけたり、ドライブの好きな利用者は自宅の近くに行けるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 良い関係が保てるように、席をかえている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設を移られても、様子を伺いに行っている。	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族会等で情報収集に努めている。センター方式に記録し、職員は情報を共有している。  (外部評価) 日常会話の中で、利用者から思いや意向を聞くようしている。また、思いの把握が困難な利用者には、家族に聞く等で利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。不穏な利用者には、寄り添いながら聞いたり、散歩に出かけたりするなどの対応をしている。対応した成功例を申し送り時に話し合い、センター方式の記録をして活用しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族からの情報をセンター方式に記録し、ケアに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活記録・支援経過に記録し申し送りし、職員で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング時、一人ひとりカンファレンスを行い状況の把握をしている。 利用者・家族の希望、また状況に合わせた介護計画の作成に努めている。  (外部評価) 利用者や家族の思いや意向を反映して、介護計画を作成している。6か月に1回、利用者や家族、関係者と話し合い、見直しを行っている。計画目標、サービス内容を記入したカードを作成し、職員が分かりやすいように実施状況はシールを貼るなど、モニタリングにつなげている。経過記録には、日常生活の様子を利用者の言葉で記録し、利用者や職員のやりがいにもつながるように工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 気づいた事など申し送りし記録、職員で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設のデイサービスを利用し交流を図ったり、母体病院のリハビリに行く機会がある。利用者の意向を聞いて、柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 高校生の協力で園芸セラピーを行っている。“たのもさん”作りには地域の方が指導に来てくださっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 母体の病院と連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<b>(外部評価)</b> 入居時に利用者や家族に説明し、かかりつけ医を母体病院の協力医に変更している。月1回、職員が同行し定期受診をして健康管理をしている。受診結果や検査予定等は、職員が家族に電話や面会時に報告して情報を共有している。外科などの専門医は、家族の協力を得て受診している。緊急時には、母体病院の協力医が往診して対応してくれるなど、利用者は適切な医療を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<b>(自己評価)</b> 勤務している看護師・病院の看護師に異変を伝え、迅速・適切な医療支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<b>(自己評価)</b> 母体以外の病院に入院した場合は、入院先の病院関係者と見舞い時に情報交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<b>(自己評価)</b> 家族の意向を面会時や家族会で聞いておき、ミーティングで話し合っている。  <b>(外部評価)</b> 看取り等の指針を作成している。ほとんどの家族が看取りを希望されており、事業所としてできることできないことを家族に説明し、確認している。事業所では今までに6例の看取りの経験がある。看取りは、母体病院の看護師長の指導があり、職員や医療関係者が連携を図り、安心して穏やかに最期が迎えられるよう支援に努めている。	看取りの職員や看護師、医療関係者がそれぞれの役割を確認し合い、連携体制を構築すると共に、職員が研修に参加するなど事業所での勉強会を重ね、職員のレベルアップを図り、住み慣れた場所で安心して最期を迎えるよう、さらなる取組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の研修へ行ったり、職員全員がAED講習を受講するようしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) H24年“火災”、H25年“地震”を想定して職員全員参加で避難訓練を実施した。  (外部評価) 事業所独自の夜間を想定した訓練のほか、消防署の協力を得て、年2回防災訓練を実施し、アドバイスをもらっている。建物の屋上タンクに蛇口をつけ、各階の洗面所の足元に水を置くなど、緊急時に水が使用できるよう対応している。4階建ての耐震構造となっている事業所は、地域の避難場所としての受け入れの情報提供をしている。また、地区の防災訓練にも参加し、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) トイレ誘導や排泄処理等はプライバシーを傷つけないように接している。  (外部評価) 排泄時には利用者に小さな声でさりげなく声かけをしたり、ちゃん付けで呼ばないなど、親しくなりすぎて失礼のないよう気を付けて対応している。管理者は職員の気になる対応がある場合は、その都度個人的に注意をしている。また、気になることは職員同士で注意し合ったり、ミーティングで話し合いながら、利用者のプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中でも本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の様子や気づいたことを申し送り等で職員全員が把握して、自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそつて支援している	<b>(自己評価)</b> 他の利用者のリハビリ送迎や病院受診で職員の人手不足の時は話し合いで理解していただき、後で希望に沿った支援をしている。	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<b>(自己評価)</b> 美容師に来所してもらいカットしている。個人的に美容室に行っている利用者には送迎の支援をしている。	
		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<b>(自己評価)</b> 季節感のある献立に努めている。菜園で取れた野菜を使っている。  <b>(外部評価)</b> 今治南高校の協力で園芸セラピーの菜園があり、旬の野菜を収穫し調理している。週2回、ユニット毎に交代で買い物に行き、卵・肉・魚・牛乳は配達してもらい、地元の米を使用して職員が調理している。毎日、利用者の好みを聞き、冷蔵庫にある物で献立を立て調理し、利用者の嫌いな物がメニューに含まれている場合は、代わりの物を提供している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食事をしている。また、誕生日は特別食を用意している。	
40	15	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<b>(自己評価)</b> 母体病院の栄養士に献立を見てもらい、アドバイスを受けている。一人ひとりの状態で食べやすく調理している。また十分に摂取できない状態の利用者には栄養補助食品を利用している。	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<b>(自己評価)</b> 毎食後、口腔ケアを習慣にしている。JAおちいまばりより歯科治療の往診も利用している。	
42				

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> 排泄パターンに合わせ声掛け誘導している。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<b>(外部評価)</b> 排泄チェックをし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員が声かけをし、トイレ誘導することでパット交換の回数が減っている。夜間には鈴の合図で職員がポータブルトイレでの排泄を介助する等、トイレでの排泄ができるよう支援している。また、ヨーグルトや纖維質の多い食物を多く食べたり、ラジオ体操や食後に廊下を歩く等、利用者の便秘対策にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<b>(自己評価)</b> 毎朝オリゴ糖入りヨーグルトを提供。食事の材料にも纖維食品を取り入れている。必要な方には腹部マッサージ施行、カマグ等を調整している。	
			<b>(自己評価)</b> 昼食後、2日おきに入浴している。午前中にマイペースで入浴する方もいる。体調により足浴施行している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<b>(外部評価)</b> 3日に1回を基本として、午後に利用者の希望に合せて入浴することができる。浴槽には入浴剤を入れて、ゆっくり話をしながら、入浴が楽しめるよう支援している。重度の利用者や身体状況に合わせて、シャワー浴での対応もしている。入浴が苦手な利用者には、タイミングを見て声かけをしたり、家族が自宅のお風呂で介助をして入浴をするなど、利用者に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<b>(自己評価)</b> 眠れないときは温かい飲み物を提供。話を傾聴し、気持ちを落ち着け、眠れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更・追加の処方は申し送りし、連絡ノートに記入。職員は情報を共有し服薬支援に努め症状も記入し状態を観察している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家族に面会や外出をお願いしたり、行きつけの美容室に歩いて同行し、気分転換をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 春や秋には花見に行ったり、外食に出かけたりしている。家族に協力してもらい、墓参りに行ったり、自宅へ帰ったりもしている。  (外部評価) 天気の良い日は敷地内で外気浴を楽しんでいる。2か月に1回、市民の森や吹揚山、菊花展などに出かけられるよう支援している。年4回、ホテルや回転寿司などの外食にも出かけており、利用者は楽しみにしている。利用者の希望に応じて、美容室に出かけたり、コンビニへお菓子を買い行ったりするなど外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時のお金の出し入れはスタッフが同行して見守っている。買った内容はお小遣い帳に書き、家族に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフルームの電話で家族に電話できるよう支援している。年賀状は毎年家族宛に2枚書いてもらって出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
			<b>(自己評価)</b> エアコン・加湿器・空気清浄機・床暖房が設備され快適に過ごせるようにしている。エレベーターホールのガラスは毎月飾り、季節感を出している。	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(外部評価)</b> 調理場からリビング全体を見渡すことができ、利用者は自由に行き来できる。リビングは広く、日差しが十分に入り明るい空間となっている。壁には、写真や季節の飾りつけをしている。廊下にはソファを置き、利用者はゆったりと穏やかに過ごすことができている。浴室の入口にはのれんを掛けたり、トイレのドアの色を変えたりするなど、利用者に分りやすい工夫をしている。ユニットの入口にはソファを置いて花を飾り、サンルームの雰囲気でくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	<b>(自己評価)</b> エレベーターホールにソファーを置き、サンルームのような雰囲気をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<b>(自己評価)</b> 家族の写真を飾ったり、孫・ひ孫からのプレゼントを飾っている。  <b>(外部評価)</b> 居室はベッドと整理タンスを常備している。居室には、位牌や使い慣れた身の回りの物を持ち込んでいる。壁には家族の写真を飾るなど、利用者一人ひとりが落ち着いて過ごすことができる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<b>(自己評価)</b> 大きいカレンダー・時計で日時がわかるようにしている。	